

# Economic Indicators

発表日:2022年8月8日(金)

## 国際収支(2022年6月)

～経常収支(季調値)は事前予想を上回る黒字拡大も、一時的な上振れとみられる～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支	
					貿易収支	サービス収支		
2021	4月	11,297	14,254	▲ 726	3,887	▲ 4,613	17,056	
	5月	17,937	15,693	881	4,161	▲ 3,280	16,701	
	6月	7,396	14,878	▲ 1,237	1,999	▲ 3,237	18,086	
	7月	17,153	11,581	▲ 2,198	2,620	▲ 4,818	16,360	
	8月	15,005	10,148	▲ 4,007	▲ 889	▲ 3,118	15,736	
	9月	10,180	8,030	▲ 7,339	▲ 4,036	▲ 3,303	17,227	
	10月	10,994	7,371	▲ 6,822	▲ 2,650	▲ 4,172	16,070	
	11月	9,142	12,387	▲ 4,079	▲ 459	▲ 3,620	18,348	
	12月	▲ 2,675	8,638	▲ 7,369	▲ 4,046	▲ 3,323	18,025	
	2022	1月	▲ 12,157	1,647	▲ 10,462	▲ 3,688	▲ 6,774	13,875
		2月	16,333	5,092	▲ 11,939	▲ 7,720	▲ 4,219	19,886
		3月	25,909	15,976	▲ 9,842	▲ 5,471	▲ 4,372	28,161
4月		5,011	5,115	▲ 13,955	▲ 9,861	▲ 4,094	21,558	
5月		1,284	82	▲ 14,461	▲ 11,867	▲ 2,595	16,271	
6月		▲ 1,324	8,383	▲ 18,320	▲ 15,865	▲ 2,455	28,435	

(出所)財務省「国際収支統計」

### ○経常収支は、貿易・サービス収支赤字による下押しが続く

6月の経常収支(原数値)は▲1,324億円の赤字(コンセンサス:▲7,109億円の黒字、レンジ:▲10,020億円の赤字～▲1,594億円の赤字)となった。原油高を背景に貿易収支の赤字幅拡大が続き、前年同月から▲8,720億円減少し赤字転化となった。

季節調整値では、経常収支は+8,383億円の黒字(前月:+82億円の黒字)となった。前月から黒字幅を改善させたものの、これは所得収支の大口取引による一時的な上振れによるところが大きい。所得収支の上振れを除けば、6月の経常収支は季節調整値でも赤字転化していた可能性が高いとみられ、基調としては貿易・サービス収支の赤字拡大による下押しが続いている。

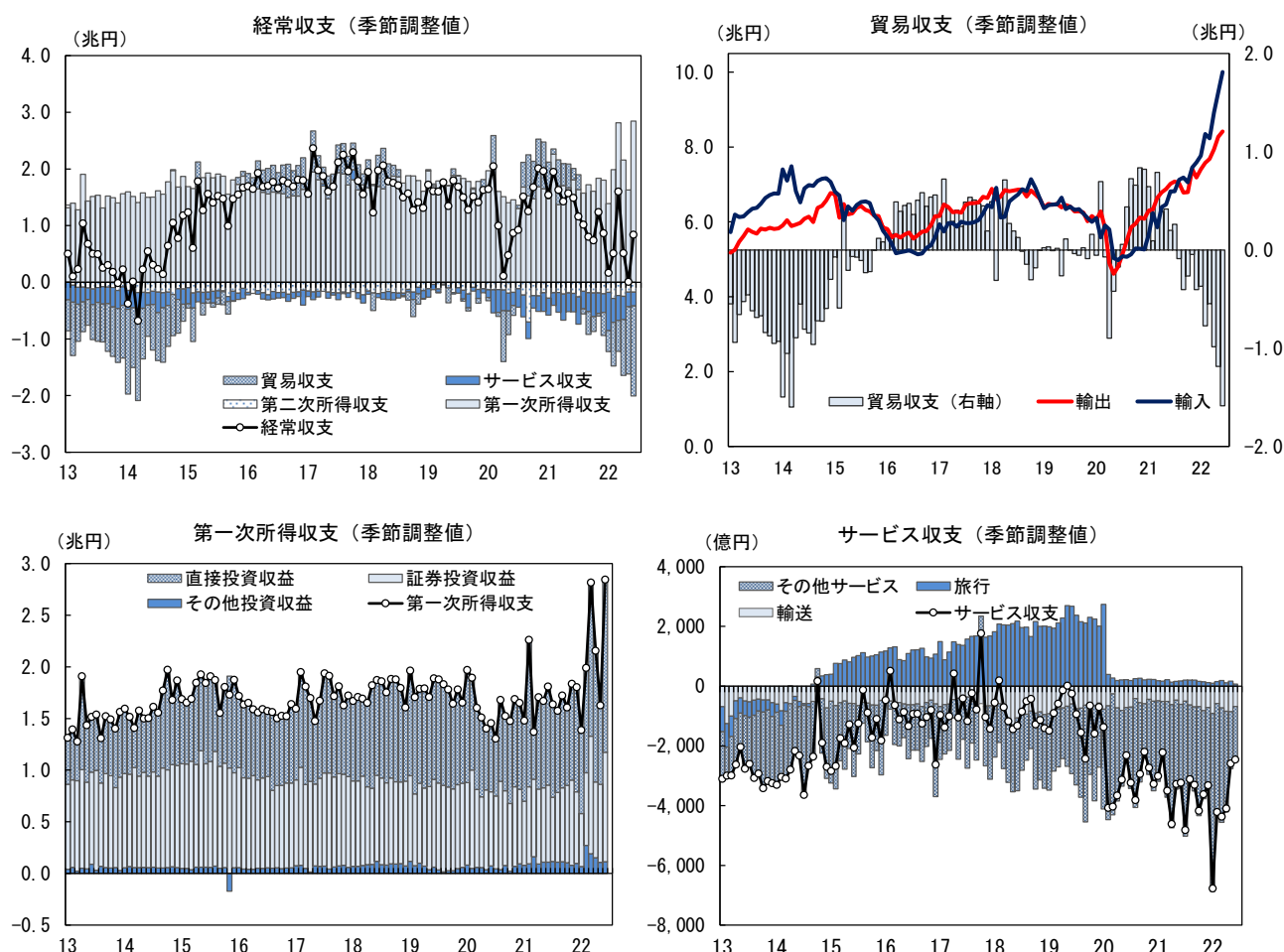
内訳(季節調整値)をみると次の通り。貿易・サービス収支は▲18,320億円の赤字(前月:▲14,461億円の赤字)となった。貿易収支は、輸出(前月比+1.8%)、輸入(前月比+5.8%)ともに前月から増加となったが、原油高や円安の影響で輸入の伸びが輸出の伸びを上回る展開が続き、前月から赤字幅が拡大した。第一次所得収支は+28,435億円の黒字(前月:+16,271億円の黒字)となった。6月は大口取引による配当金受取が重なったことで黒字幅が大きく拡大しており、事前予想上振れに繋がっている。もっとも、こうした特殊要因を除いた実勢としても、円安を追い風に第一次所得収支は高水準での堅調な推移をしている。

## ○目先は季節調整値でも赤字転化の可能性が高い

先行きの経常収支（季節調整値）は、当面は貿易・サービス赤字による下押し圧力が強い状況が続くとみる。

貿易収支は、当面は高水準の赤字での推移が続くだろう。輸入面については、欧米諸国での急速な金融引き締めによる世界経済の減速懸念の強まりから、足元の原油価格は下落基調に転じており、これまで大幅な上昇を続けてきた輸入物価は8月以降伸びが一服する見込み。ただし、輸出面についても、景気後退懸念が強まる米国向け、欧州向けが足を引っ張ることで、緩慢な伸びに留まる可能性が高い。貿易赤字となっている現在、円安の進行は貿易収支の悪化要因になりやすいこともあり、貿易収支は今後も高水準での赤字が続くだろう。

貿易・サービス赤字の改善には時間を要することから、目先は経常収支が季節調整値でも赤字転化する可能性が高い状況が続く。もっとも、第一次所得収支の大幅な黒字が貿易・サービス赤字を補うことで、経常赤字が定着する可能性は低いとみる。当面の経常収支は小幅の黒字ないしは小幅の赤字での推移となるだろう。



(出所) 財務省「国際収支統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。